

ZENFUREN

全国国立大学附属学校連盟・一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

附属だより 第118号

全附連ホームページ <http://www.zenfuren.org/>

全附P連最新情報 <https://www.facebook.com/zenfuren>
 (一社)全国国立大学附属学校PTA連合会
 -535185576863562/

~子どもたちとこの国の未来のために~

第118号
LINEUP

令和3年度
全附P連PTA研修会
第12回全国大会
1~4面

全附P連
絵画コンクール2021
5~7面

世界の国旗について
埼玉県立大学元教授、
公益財団法人東京オリンピック・
パラリンピック競技大会組織委員会
国際局前アドバイザー
世界の国旗・国歌研共同代表
吹浦 忠正 様
東京2020オリンピック
大会に出場した附属出
身者・関係者
8面

ファンディングの実践
東京学芸大学附属国際中等教育学校
総務部部長/SAコーディネーター
藤木 正史 様

「子どものいる教員研修
支援センター」としての挑戦
北海道教育大学附属釧路義務教育学校
後期課程 副校長
小林 一博 様
オンライン授業への取り組みを
地域の学校園へ伝える
茨城大学教育学部附属小学校
研究主任/副教務
佐々木 康治 様
9面

教職員の働き方改革に
向けた校務のデジタル化
香川大学教育学部附属
高松小学校 副校長
大嶋 和彦 様
ICT活用と生徒指導は「車の両輪」
千葉大学教育学部附属中学校
校長
藤川 大祐 様
(千葉大学教育学部教授)
10面

第2回全附P連
みんながつながる
オンライン文化祭
金融経済教室の紹介
11面

全附P連PTA研修会 第12回全国大会

子どもたちとこの国の未来のために~今こそ附属の底力を見せて新しい時代に向き合おう~

9月25日(土) リモート開催



萩生田光一前文部科学大臣

皆さんこんにちは。本日ここに全
国立大学附属学校PTA連合会
PTA研修会の第12回全国大会が開
催されますことを心より喜び申し
上げます。皆様におかれましては、
日ごろからPTA活動を通じ学校教
育へのご支援、子どもたちの健全育
成のために多大なご尽力をいただき
誠にありがとうございます。全国
立大学附属学校PTA連合会におか
れましては、これまでいじめ防止
や障がい者理解に関する取り組み
に、積極的にご尽力いただいている
ところですが、新型コロナウイルス
感染症の拡大によりこれまで通りの
活動が難しい中で、大変なご努力と
創意工夫のもと、様々なPTA活動
が進められていることに対しまし
て、感謝申し上げます。

社会が大きく変化する中、文部
科学省では令和の日本型学校教育
を実現し教育の質の向上につなげ
るため、多様なスタッフの活用等
による働き方改革への取り組みに
加え、約40年ぶりに公立小学校の
学級編制の標準を段階的に引き下
げるとともに、一人一台端末の導
入など「GIGAスクール構想」
を進めているところであります。こうし
た流れの中で国立大学の附属学校
には我が国の地域の教育を牽引す
るモデル校として、少人数学級の
効果検証やデジタル教科書、学習
データ等を活用した先導的な実証
研究に積極的に取り組み、教育効
果に関するエビデンスを広く社会
に示していただくことを通じて、
その成果を普及・展開していただ
くことが期待されます。

皆様方に置かれましては、学校・
家庭・地域の連携・協働を牽引して
いただくとともに、学校教育のよき
理解者として、今後とも附属学校の
教育に引き続きご理解とお力添えを
いただきますようお願いをいたしま
す。文部科学省としても、これから
の時代を生きていく児童生徒が豊か
な人生を切り開き、持続可能な社会
の作り手となることができよう
PTAの皆様と手を携えて我が国の
教育の充実に取り組んでまいります。
結びに今回の大会が素晴らしいもの
となりますことを期待いたしますと
ともに、全国国立大学附属学校
PTA連合会のみならずのご発展と
皆様の一層のご活躍を祈念し、大会
にあたってのお祝いの言葉といたし
ます。

ご挨拶

新しい時代の PTA活動へ向けて



一般社団法人全国国立大学附属学校
PTA連合会
会長 **大竹 昌士**
(茨城大学教育学部附属小学校)

コロナ禍の中、全附P連ではオンライン
での活動を中心に進めてまいりました。9
月に開催された第12回全国大会も昨年に続
きYouTube配信での開催となりましたが、
多くの保護者様がご家庭にいながら視聴で
きるといふオンラインならではの効果も
あり、全国大会終了後に行ったアンケート
では、アフターコロナになっても全国大会
の様子を配信してほしいというお声もた
くさんいただいております。全附P連とし
ても、一人でも多くの方々にこうした活動
での利益を共有できることは前向きに取
り組んでいきたいと考えています。全国大
会は、これまで一部のPTA役員が参加で
きるものだったかもしれませんが、オンラ
インの活用が広まっていく中で、全国の誰
もが参加できるものになりました。全附
P連ではこの機会を大切に、これからも
皆様に喜んでいただける事業を展開して
いきます。一方で、集合型で得られるもの
もたくさんあると感じています。集合型と
オンライン、それぞれの良いところを活か
し、新しい時代に合った活動を考え取り組
んでまいりたいと思います。
今後とも皆様のご理解とご協力を賜り
ますよう、よろしくお願いいたします。

コロナ禍と附属学校の教育活動



全国国立大学
附属学校連盟
理事長 **池田 全之**

今年度も新型コロナウイルス感染症対
策に配慮しながら、附属学校の教育活動
が実施されております。私が所属してお
りますお茶の水女子
大学附属中学校にお
ける制約の中で
できる形で実施しようという考えの下、教職員は尽力して
おります。そのよりよい教育を目指す熱意に触れ、本当に頭の下がる
思いでございました。

さて今回も、日頃接している思想家の言葉を思い起こしながら、
これまでの附属学校の教育実践に触れて考えたことを述べてみた
いと思います。20世紀オーストリアの思想家、ヴィトゲンシュタ
インはその後期思想で「アスペクト知覚」について興味深い議論
をしています。アスペクト知覚とは、ウサギ-アヒル絵(アヒル
に見える絵が、ウサギに見えるようになるだまし絵)を見る
ときに起こる知覚のことです。だまし絵において見えるものが変
るときに起こっている事態にヴィトゲンシュタインは注目します。
アヒルに見えていた絵が突然ウサギに見えるようになることは、
他者からウサギにも見える可能性を指摘されることによって初め
て起こるというのです。ヴィトゲンシュタインのだまし絵をめぐる
議論は人間関係一般の説明と解釈できます。私たちは通常、物事
を自分の視点からだけ理解しています。しかし、物事には自分
には見えていない面があるはずなんです。この面に気づくためには、
他者の語りへの傾聴が不可欠だということです。ここからヴィト
ゲンシュタインは、人間関係の基本を「聴く姿勢」に見ていたため
が明らかになります。コロナ禍のような緊急事態に対応するため
には、慣習や通念に囚われず、物事を柔軟に捉える姿勢が不可欠
になります。ヴィトゲンシュタインが言うように、他者とのコミュ
ニケーションこそがアスペクトの転換をもたらす、一人ひとりの
認識を深めてくれることでしょう。コロナ禍における教職員の尽
力を見るにつけ、「聴き合う」ことに起因する思考深化の大切さを
教えられたように感じておりました。

コロナ禍は大変な制約を教育活動にもたらしましたが、反面、
オンライン授業のノウハウなど、通常では考えられなかった工夫
や成果をもたらしました。それらは、アフター・コロナの時代に
も継承されていくことでしょう。コロナ禍で形を変えられたすべ
ての試みが来たるべき時代の教育を豊かにしてくれる手がかりとな
れ

全附P連 PTA研修会

第12回 全国大会

9月25日(土)
リモート開催

来賓挨拶

日本教育大学協会会長 國分 充 様

日本教育大学協会の國分様よりご挨拶をいただきました。國分様より日本教育大学協会は56の国立教員養成系大学学部によって構成されていて、教員養成において附属学校の存在は極めて重要であり、今後も先導的な教育モデルを開発し、その成果を展開することで学校教育の水準の向上に寄与することを期待しているとお言葉をいただきました。今後も日本教育大学協会は附属学校の在り方検討ワーキンググループにおいて附属学校の強みを発信するための研究開発を行っていかれるとのことでした。今後の附属学校のために共に歩んでいきたいと思います。



財務省より行政説明

財務省大臣官房地方課 課長補佐
尾崎 淳 様

財政教育プログラムを中心に財務省・各地財務局の広報活動についての行政説明をしていただきました。はじめに財務省が現在、組織風土改革を取り組む為に「財務省再生プロジェクト」の全体像とその目的についてのご説明がありました。その中で広報の取り組みとしては「双方向のコミュニケーションの向上」「省外とのコミュニケーションの向上」「省外とのコミュニケーションの向上」であり、財政教育プログラムは若年層向け広報の重要な手段として特に注力しているところであるとご説明をいただきました。財政教育プログラムの実施状況としては平成27年度に附属学校で開始されて以来、令和元年度までは実施件数が順調



財務省大臣官房地方課 課長補佐 尾崎 淳

に推移していましたが現在はコロナ禍の影響を受けています。しかしながら財政教育プログラムは若年層向け広報の重要なツールとして位置づけられており、感染症対策にも充分配慮しながら取り組んでいきたいとご説明してくださいました。また財務省では今般、財政教育プログラムの動画教材を作成されたとのことで、これは財務省職員の説明等は一切必要とせず学校の先生と生徒児童だけでプログラムを学ぶことができるようにしたものであり、教材としてぜひ活用いただきたいとご説明してくださいました。

最後に最近の特徴的な事例として、財政教育プログラムオンライン開催事例(佐賀大学教育学部附属中学校・福岡教育大学附属福岡小)と国の財政を議論するディベート授業に協力した事例(香川大学教育学部附属高松中)を各校で行われた授業の様子とともにご紹介していただきました。

文部科学省教員養成企画室より行政説明

文部科学省総合教育政策局教育人材政策課 教員養成企画室 室長
小畑 康生 様

はじめに「中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(答申)」の総論解説では急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力についてのご説明をいただきました。また日本型学校教育の成り立ちと成果として直面する課題と新たな動きについては「正解主義」「同調圧力」からの脱却や一人一人の子どもを主語にする新しい時代の学校教育の実現が求められているとご説明いただきました。次に「国立大学附属学校の使命・役割について」のご説明をいただきました。①実験的・先導的な学校教育②教育実習の実施③大学学部における教育に関する研究への協力を国立大学附属学校に期待しているとのことでした。



文部科学省総合教育政策局教育人材政策課 教員養成企画室 室長 小畑 康生

一方で①在り方や役割の見直し②大学との連携③地域との連携④成果の還元⑤附属学校の規模の見直し等の対応を国立大学附属学校に求めていると説明がありました。社会背景の変化するなか、教育が直面している課題等の解決が求められています。これまでの良さを受け継ぎさらに発展させることにより新しい時代の学校教育を実現していくことが求められているところでした。国立大学附属学校においては各地域さらにはわが国の学校教育全体を牽引する先導的な役割を担うことが期待されているところであり、こうした新たな動きを的確に捉えた実践を積極的に展開していくとともに、新しい時代にふさわしいそ

れぞれの附属学校のあり方について関係者と議論し、明確化し、そして広く社会に共有していくということが求められています。小畑室長は各附属学校における積極的な取り組みを期待したいとお話されていました。

基調講演

人工知能の進展とこれから必要とされる人材について

東京大学教授
松尾 豊 様

今年の基調講演では、東京大学教授の松尾豊先生に「人工知能の進展とこれから必要とされる人材について」というテーマでご講演いただきました。

まず、「人工知能」とは何か？ということについてご説明いただきました。人間の知能をコンピュータで実現したいというのがもともとの考えだけれど、実は専門家の間でも定義が定まっていなかった。それは「知能」とは何かということにいろいろな考え方があって、ただ、新しい技術を使えば実現できるというよなものを概して「人工知能」と呼ぶ場合が多いとのこと。人工知能の研究は1956年にスタートして60年たちますがまだ完成していません、裏返せばそれは人間の知能がいかにすごいものかということを感じする歴史でもあるといえます。

現在2013年からの第3次AIブームで、ディープラーニングが中心となっています。ディープラーニングとは、大量のデータに基づいて学習をする仕組みで、アルファ碁、将棋AI、顔認証(成田空港や羽田空港での出入国ゲート・検温)、翻訳等に活用されています。さらに、ディープラーニングを眼や体の技術(ロボット自体を上手に動かす)に活かしたものを、ハードウェアの技術と組み合わせることで今後いろいろな作業の自動化ができるようになります。これは日本の重要な戦略の一つになると考えられ、今後深刻になっていく人手不足の問題を解消する手助けにもなることが期待されています。未だに人手に頼っているような領域で少しずつこれらによる自動化が進みグローバルに再編され

プロフィール

松尾 豊

1997年 東京大学工学部電子情報工学科卒業。2002年 同大学院博士課程修了。博士(工学)。産業技術総合研究所研究員、スタンフォード大学客員研究員を経て、2007年より、東京大学大学院工学系研究科准教授。2019年より、東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター/技術経営戦略学専攻教授。専門分野は、人工知能、深層学習、ウェブマイニング。人工知能学会では、編集委員長、倫理委員長等を務め、2020年から理事。2017年より日本ディープラーニング協会理事長。2019年よりソフトバンクグループ社外取締役。



また、今年もWEB配信のご講演でしたが、講演後にはライブにて質疑応答にお答えいただきました。充実した講演となりました。

第12回全国大会 活動事例紹介

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園 育友会

鈴木礼子様よりコロナ禍における保護者活動の新しい取り組み方の説明をしていただきました。大きな行事として年二回行われる「研修講座」では、様々なテーマで講師をお招きし、子どもの発育、食育など保護者の学び場を提供する保護者活動をしてもらいましたが、コロナ禍により多くの活動が縮小、中止を余儀なくされたことです。そこで、今後の活動は、「何もしないのではなく、むしろ良いものに発展しよう」という目標のもと、全附属PTA研修会全国大会をYouTubeで配信された他、附属だよりに掲載された各学校のICT活用の記事をヒントに、対面とオンラインが選べるハイブリッド型の「研修講座」を行いました。その「研修講座」では、約9割の参加があり大成功となったことにより、その他の保護者活動もハイブリッド型で開催され、今後の多様な育友会活動の道筋となったことでした。

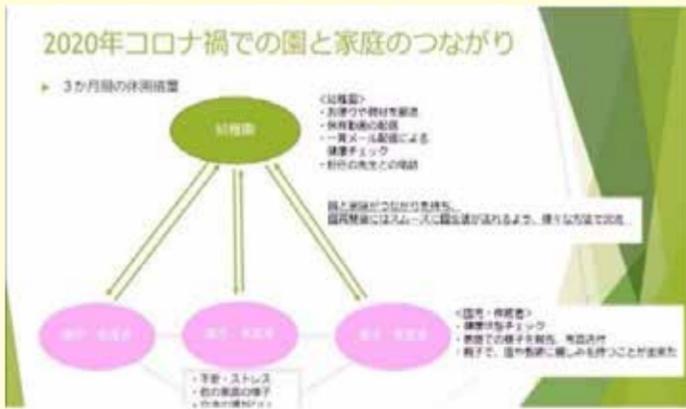
福島大学附属中学校

福島大学附属中学校では5年前からタブレット端末を本格的に授業で活用しており、その結果教育委員会から「是非、公立学校へも同様の授業を提供してほしい。」との依頼を受け、公開授業を行うに至った経緯を副校長の菅野重徳先生よりお話ししていただきました。コロナ禍において、公開授業を安全に行うために注意する点や対策の説明のほか、各学科の担任の先生方からは、タブレット端末の各教科での活用の仕方の説明が行われました。今後もタブレット端末をただ活用するだけではなく、それらを有効に用いて学びが深まる授業づくりを心がけていかれるとのことでした。

GIGAスクール構想における地域貢献



保護者活動における変化と発展 ~コロナ禍をプラスに捉えたICT活動~



た。これからも幼稚園と保護者が互いに協力しあい、より良い活動を推進していくとの報告でした。

大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎

副校長の糠野順一先生よりコロナ禍に合わせた新しい教育研究会の報告をしていただきました。令和3年度の研究会は「授業のオンデマンド配信」と「協議等のリアルタイム配信」を組み合わせたハイブリッド形式で実施されました。前日までに授業の録画、学習指導案の作成を行い、学校のホームページやYouTubeにアップする作業が行われました。研究会当日はZoomで全ての配信を行い、参加者は来校せずとも質疑応答や意見交換をオンライン上で行えたことでした。自分の好きな時間で授業と指導案が閲覧できる、遠隔地でも参加しやすいなど、事後アンケートの結果では9割以上

第67回 教育研究会 報告



の参加者がとても満足、やや満足とされ、良い評価をいただいたことでした。今後の研究発表会でもICTの活用を進め、対面で行うことと遠隔で行うことの良さをそれぞれ検討しさらに良い発表会を実施していかれるとの報告でした。

北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程 父母と先生の会

2021年に附属釧路小学校と附属釧路中学校が合併し、附属釧路義務教育学校となりました。地域をリードできる人材を育てるため、義務教育期間の9年間に亘って行われるという長期的な視点に立ち、リーダーシップ、フォロワーシップの育成に重点を置いた教育活動などの紹介をしていただきました。PTA活動に関しては、コロナ禍を考慮し、「全員で集まらない」「過度な負担がない」ことを念頭に取り組んでこられました。PTA各委員会では、ICTを活用して、YouTubeやWEB会議システムで活動するほか、コロナ禍の時勢や状況を考え、常設のPTA委員会とは別の「プロジェクト委員会」を設置されました。「プロジェクト委員会」

ポストコロナを見据えたPTA活動 ~歩み続けるPTAの姿が子どもたちの力に~

ではコロナ禍に必要な活動の見直しとポストコロナを見据えて考えた新たなアイデアを基に活動を続けているとの報告でした。どの地域のPTAもコロナ禍前後の活動の見直しが必要とされるなか、ポストコロナを見据えた、常設のPTA委員会は別の委員会の設置は大変参考になる活動であると思われました。



三位一体改革について

各学校園における活動事例報告を受け、コロナ禍でどの学校も苦慮している中、今できる最善の活動に取り組んでいること、対面が困難な状況下においてオンラインやICTを活用していく姿勢について、各パネリストからご講評をいただきました。そして、これらの活動の実践を通じてエビデンスを構築すると共に、国立大学附属学校のステークホルダーである大学、学校、保護者が新しい時代において社会の要請に対応していくことが三位一体の改革であるとの見解が示されました。



全附P連PTA研修会 第12回全国大会

全附後連活動



全国国立大学附属学校
教育後援会連絡協議会
理事長 幡谷 公朗 様

全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会(以後、「全附後連」と呼称します。)は、全国の国立大学附属学校園の寄付金管理団体として組織されている「教育後援会」の連合体として設立されたものです。

全附後連は、附属学校園を取り巻く寄付金の問題を解決するため、財務省や文部科学省の寄付金についての今の考え方や、取り巻く環境の情報発信や、各学校園の問題や質問を踏まえた調査研究を進め、助言や情報共有をしています。

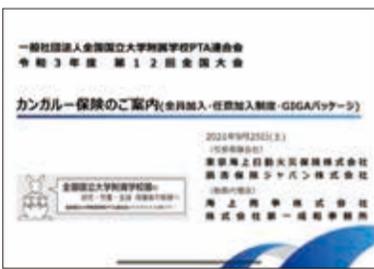
また、全附後連では、役員の入れ替わりによる情報量や知識量が下がる弊害に対して、皆様の教育後援会や寄付金制度の理解を深めていただくため、「教育後援会ってなあに?」という冊子を作成しています。冊子は、会員は無料、非会員は有料で配布していますので、ぜひご利用いただきたいと思います。

今後も附属学校園の運営に役立てよう取り組んでまいりますので、全附後連へのご理解、ご支援をいただきますようお願いいたします。

全附P連団体保険(カンガルー保険)

新型コロナウイルス感染症の拡大や蔓延に伴い、被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

カンガルー保険は、附属学校園に通うお子様の安心と安全のサポートを第一に考えて作られた、特別な保険制度でございます。保



険の設計にあたっては、学校園様や保護者の皆様のご意向にお応えするため、全附P連と代理店、保険会社の3者で協議を重ねて運営しております。毎年、多くの学校園、保護者の皆さまにご加入いただいていることで団体保険としての最大の割引率でご提供することができております。これからも、附属学校園に通うお子様が、安心して、勉学やスポーツ、文化活動などに取組めるよう、論議を重ねてより良い保険制度を目指してまいります。

加入対象	加入料	保障内容
附属学校園に通う小学生	100円/年	学業中断補償、医療費補助、学費補助
附属学校園に通う中学生	100円/年	学業中断補償、医療費補助、学費補助
附属学校園に通う高校生	100円/年	学業中断補償、医療費補助、学費補助

加入人数	割引率
100名未満	10%
100名以上	15%
200名以上	20%
300名以上	25%
400名以上	30%
500名以上	35%
600名以上	40%
700名以上	45%
800名以上	50%
900名以上	55%
1000名以上	60%

あいサポート運動



『あいサポート運動』とは、障がいのある方へ必要な「ちょっとした配慮・手助け」について正しく理解し「誰もが暮らしやすい地域共生社会」をみんなで一緒に作っていく運動です。全附P連は本運動を創設した鳥取県との提携のもと附属学校園や関係各所で本運動の中心となる事業「あいサポーター研修」を実施しています。

ご案内は、全ての学校園へお送りしています。昨年度からの新型コロナウイルスの影響で、各学校園への訪問での活動はおこなっていませんが、オンライン形式で受講していただく事も可能です。是非ご検討ください。

共生社会の実現に向けて、附属の仲間から障がいへの理解を高めていきましょう。

オンライン文化祭

音楽や芸術など文化活動が盛んである各地の附属学校園ではコロナ禍においても可能な範囲での活動を行っていますが外部との接触が制限され発表の機会が失われている子どもたちが多く存在します。

そのような事態を踏まえ全附P連ではお互いの取り組みを発信・視聴しあえる仮想の文化祭ともいえるホームページを「みんながつながるオンライン文化祭」として昨年度に開設いたしました。

これまで交流の機会が限られていた校種や地域を超えて活動を披露しあうことは普段の活動に対するモチベーションの向上にもつながることが期待されます。

中学生が特別支援学校生徒のがんばる様子を見ることや幼稚園児が高校生のお兄さん・お姉さんたちの練習の成果に触れることは画面を通してでも多くの気づきや学びにつながると思いますので多くの学校から様々な部門でのご参加およびご視聴をいただけることを願っております。



全附P連活動紹介

全附P連は昭和27年に保護者と教職員の組織として設立されました。令和2年にはより信頼性を高め、公共性の高い活動を行うべく、任意団体から一般社団法人へ移行し、来年は創立70周年を迎えます。

全附P連の理事会は、全国から地区推薦、理事会推薦で選ばれた22名で活動し、総務、財務、広報、研修、幼稚園特別支援の5つの委員会が構成されています。コロナ禍でもオンライン会議で繋がりがながら、できることは何かを考え、質を落とさぬよう活動しています。「子どもたちとこの国の未来のために」学習環境の充実と安心・安全の確保に努め、公益性、公共性をより高めるべく、改革と周知を実践しようという附属学校園をサポートしていきます。



作文・絵作文会長賞作品朗読

本年度の会長賞は静岡大学教育学部附属浜松小学校の太田心葵さんの作品で、「ゆめを与えてくれた先生」という題で朗読してくれました。内容は理科の先生との出会いで先生の授業が面白かったことから理科が好きになったエピソードでした。その授業ではロボットアームの実験での失敗から体の仕組みに興味を湧



き、不思議への探求にワクワクした体験を楽しそうに話してくれました。先生の授業をきっかけに実際に見て、触って、確かめて経験する大切さを学び、いつか自分も先生のように人に夢を与えられる大人になりたいという言葉で締めくくり、目を輝かせていた姿が印象的でした。

全国大会を終えて

今年度も完全リモートでの大会となった全国大会。当初、配信側は集合して、皆様に臨場感を味わっていただけるよう計画を進めておりました。縮小開催することで、網羅できない課題もあったかと思いますが、リモートの開催だからこそ、全会員の皆様に対して情報が発信・共有される機会となったと思います。附属の仲間が繋がり、一緒に考えられる時間になるよう、また全附P連の活動をより身近に感じていただけるよう構成いたしました。今後も子どもたちとこの国の未来のために、皆様と共に支えていきたいと願っております。

今冬は、「心のケア」の部分に焦点を絞り、全国大会の分科会としてオン

ライン講演会を開催いたします。親子でお楽しみいただける全附P連初めての企画です。ぜひご視聴ください。

来年度は、感染収束を希望し、従来の集合型の大会とオンライン配信を融合したハイブリッド大会を目指し、企画を進めてまいります。

最後にご視聴いただきました皆様、ご協力をいただきました関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。引き続き全附P連の活動ご協力いただけますよう、よろしく願い申し上げます。

全附P連PTA研修会 第12回全国大会
副実行委員長 二村 美里

全附P連 絵画コンクール2021

今年度の絵画コンクールは画期的な開催方法となりました。1次審査を香川大学教育学部に通う大学生も参加するWEB投票により行い、1次審査を通過した作品を香川大学教育学部附属坂出小学校に集め、2次審査が行われました。香川大学教育学部附属坂出学園を主管校として開催された本コンクールでは、「未来への架け橋～明日に繋がる私たちの挑戦～」をテーマに開催され、応募作品は1,413点を数えました。3人の審査員を迎え、会長賞6点、特別賞10点、カンガルー賞39点、かけはし賞53点を選出しました。



主管校紹介

香川大学教育学部附属坂出学園

香川大学教育学部附属坂出学園は、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の四校園からなり、ルーツをさかのぼると、大正時代に坂出市に移転した香川県女子師範学校となります。今も坂出市内にある四校園は、様々な面で協力・連携しながら、一体となって子どもを育てています。

一体となって子どもを育てる

その象徴と言えるのが合同運動会です。今年はコロナのために行えませんでした。毎年9月には四校園合同の運動会を開催し、学校の枠を越えた仲間がリレーやダンスをしています。学校を行き来しての交流も多く、子どもたちは互いの発達段階を考慮した関わりが当たり前にできるようになります。また、幼稚園



から中学校まで連絡進学の成長や未来の姿を確認する場ともなっています。PTA活動も一致団結しています。幼・小・中の組織を一体化した「松韻会」、特別支援学校の「親和会」として、今回の絵画コンクールの準備・運営だけでなく、奉仕作業や行事などでは、校種を越えて参加し合っています。後援会活動でも協力関係にあり、それぞれのよさを生かして活動しています。

他にも、PTA新聞、教育研究や教育相談などで密接な関係にあり、四校園の保護者や教職員が一体となって、同じ目標をもちながら子どもたちを育てることにつながっています。

主管校所感



第17回絵画コンクール2021主管校
香川大学教育学部附属坂出四校園
松韻会会長
宮本 昌尚氏

今年度の絵画コンクール2021を「未来への架け橋～明日に繋がる私たちの挑戦～」をテーマに掲げ、瀬戸大橋の架かる香川坂出にある香川大学教育学部附属坂出四校園で主管させていただきました。コロナ禍で閉塞感が漂い、思うようなことができない日々が続いていますが、子どもたちが大切に思っていることや大好きなことを、明るい明日（未来）に向けて一歩踏み出すきっかけとして絵画を描いてもらうことを目指してきました。

また今年度はコロナ禍でも継続して事業ができるモデルの構築をするために、フォトコンテストシステムを導入し、1次審査をすることで審査時の3蜜を回避するとともに主管校の負担軽減に繋がるように計画を立てました。さらに1次審査では教員を志す香川大学教育学部の学生に投票してもらったことで、コロナの影響で教育実習が短縮になった学生が子どもたちの絵画を身近に感じ、子どもたちの心情をくみ取るという貴重な経験ができた。減った実習時間を補完することもできました。

最後にになりましたが今年度の開催するにあたっては多くの方に協力・ご助言をいただいたことを感謝申し上げます。

また貴重な経験ができた我々の財産を次年度以降も継続して行えるよう引き続きをし、盛大に行えることを祈念いたします。



審査員講評



日本芸術院会員
日本画家
福王寺 一彦氏

まずは、第17回全附P連絵画コンクール2021の開催おめでとうございました。そして、今回その作品審査に携われたことに感謝申し上げます。

10月23日、小学校の体育館の床いっぱいには並べられ

光り輝く！子どもたちの絵

た全国各地から集められた作品は、実に見事でした。動物を描いた絵、友達を描いた絵、想像や空想した絵、自然を見つめた絵、心の絵など、多様な視点で描き出された。子どもたちの鋭い感性、真剣な取り組み、自己の表現を追求し続けた姿などが作品を通して見えていました。

子どもたちのこの経験は、きつとよい変化をもたらすことでしょう。活躍を期待します。



香川大学教育学部
美術領域教授
古草 敦史氏

未来を感じる体験

どんな作品に出会えるのだろうか、期待に胸膨らませながら審査に臨みました。出会えるというのも、その作品は作者そのものであるように思うからです。子どもたちは、それぞれ真摯に画面に取り組んだことでしょう。テーマに沿いながら構想を練るなかで、どのようにしようかなとわくわくしたり、時には悩んで試行錯誤を繰り返したかもしれません。色使いもこの色、あの色と絵マに沿いながら構想を練るなかで、どのようにしようかなとわくわくしたり、時には悩んで試行錯誤を繰り返したかもしれません。色使いもこの色、あの色と絵



香川県教育委員会
西部教育事務所
宮脇 美津子氏

一枚の絵からあふれる思い

体育館いっぱい広がる子どもたちの作品を前に、心躍る気持ちで審査いたしました。

作品の中には、新型コロナウイルスがなくなると願いを込めたものやマスク姿を描いたものもありました。

一枚の絵からあふれる思い。それが、子どもたちの思い。そして、私たち大人が感じる思い。それは、未来への希望。そして、子どもたちの成長。そして、私たち大人が感じる思い。それは、未来への希望。そして、子どもたちの成長。



福岡教育幼 年中



愛媛小 1年



大阪教育池田小 3年



大阪教育池田小 5年



香川坂出中 2年



香川特支 小学部2年

全附P連
**絵画コンクール
 2021**
「未来への架け橋」
 ～明日に繋がる
 私たちの挑戦～
入賞作品

※学校名については略称とさせていただきます。

学校園優秀賞

- ・長崎大学教育学部附属幼稚園
- ・茨城大学教育学部附属小学校
- ・福井大学教育学部附属義務教育学校 後期課程
- ・東京学芸大学附属特別支援学校



鳴門小 1年

どうぶつたちとなかよくできるみらい
-アフリカゾウたちをまもりたい-



群馬中 3年

創造し続ける未来



会長賞



宇都宮幼 年中
カブトムシの森



熊本小 3年
虹色の鯨



東京学芸大泉小 6年
守りたい私の地球



筑波大塚特支 6年
未来をつかむ

特別賞



茨城幼 年長
ひかる世界



長崎小 1年
プレゼントを運ぶ 馬の宅急便



金沢小 4年
夢クジラ



香川幼 年少



山梨小 1年



鳴門教育小 1年



横浜鎌倉小 3年



大阪教育池田小 3年



広島三原小 4年



大阪教育池田小 6年



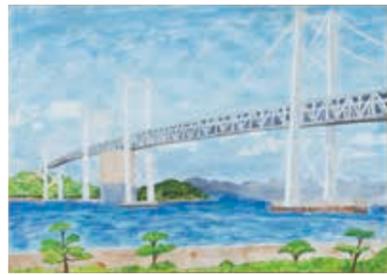
福岡教育福岡小 6年



福岡教育福岡小 5年



福岡教育福岡小 6年
ツバメに想いを託して



香川坂出中 3年
夏の瀬戸大橋



北海道教育特支 高等部2年
未来への夜明け



長崎小 6年



茨城中 1年



岡山中 2年



東京学芸特支 5年
消防車に急接近!



広島三原小 2年
いろんな色を使ってみよう!
いろんなことをやってみよう!



山形小 6年
ゴミのないきれいな海岸



茨城中 2年
Life is Music

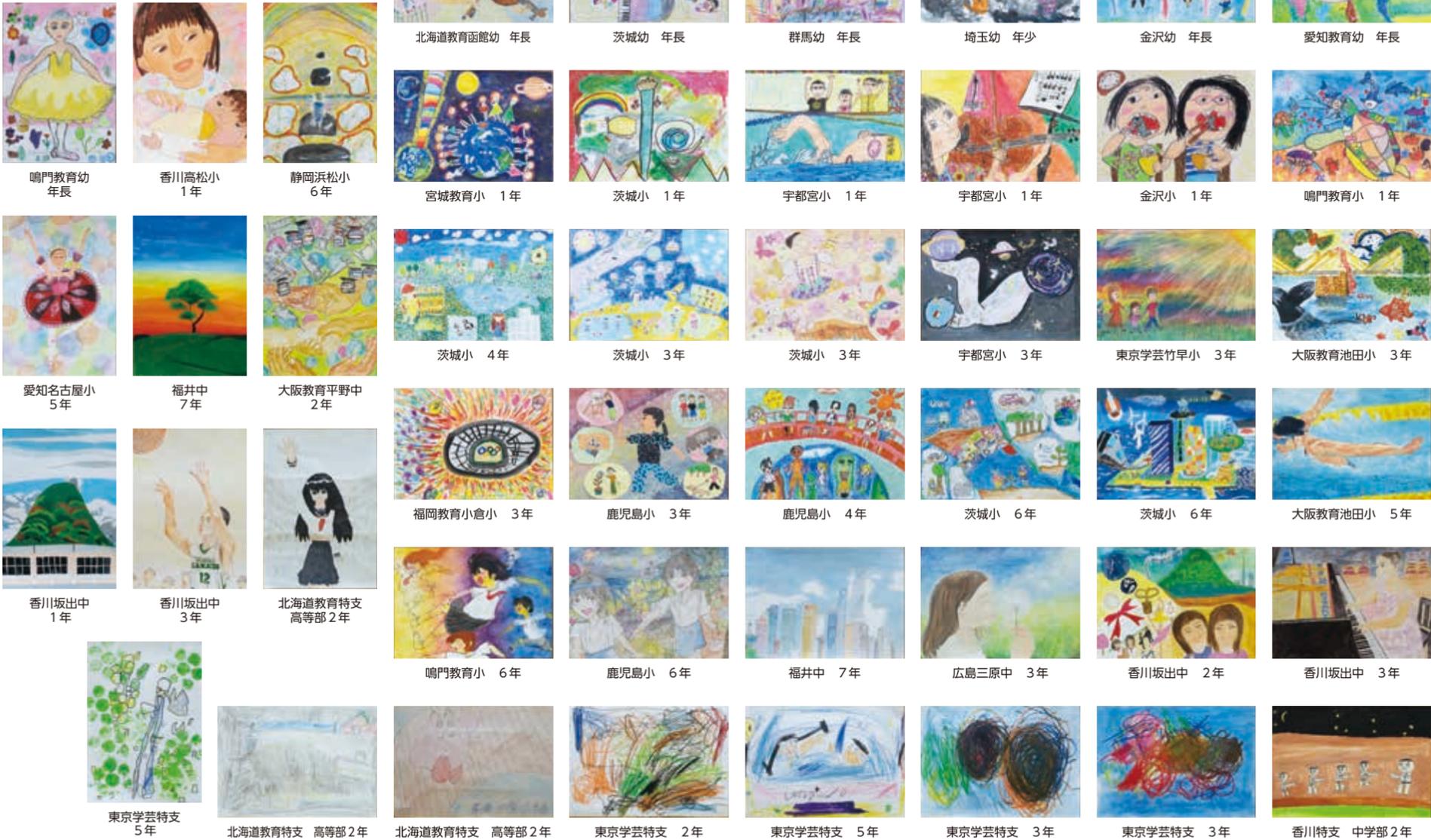


北海道教育特支 高等部3年



北海道教育特支 高等部2年

かけはし賞



第9回絵画コンクール 日比野克彦賞受賞者の活躍

佐久間 智之氏

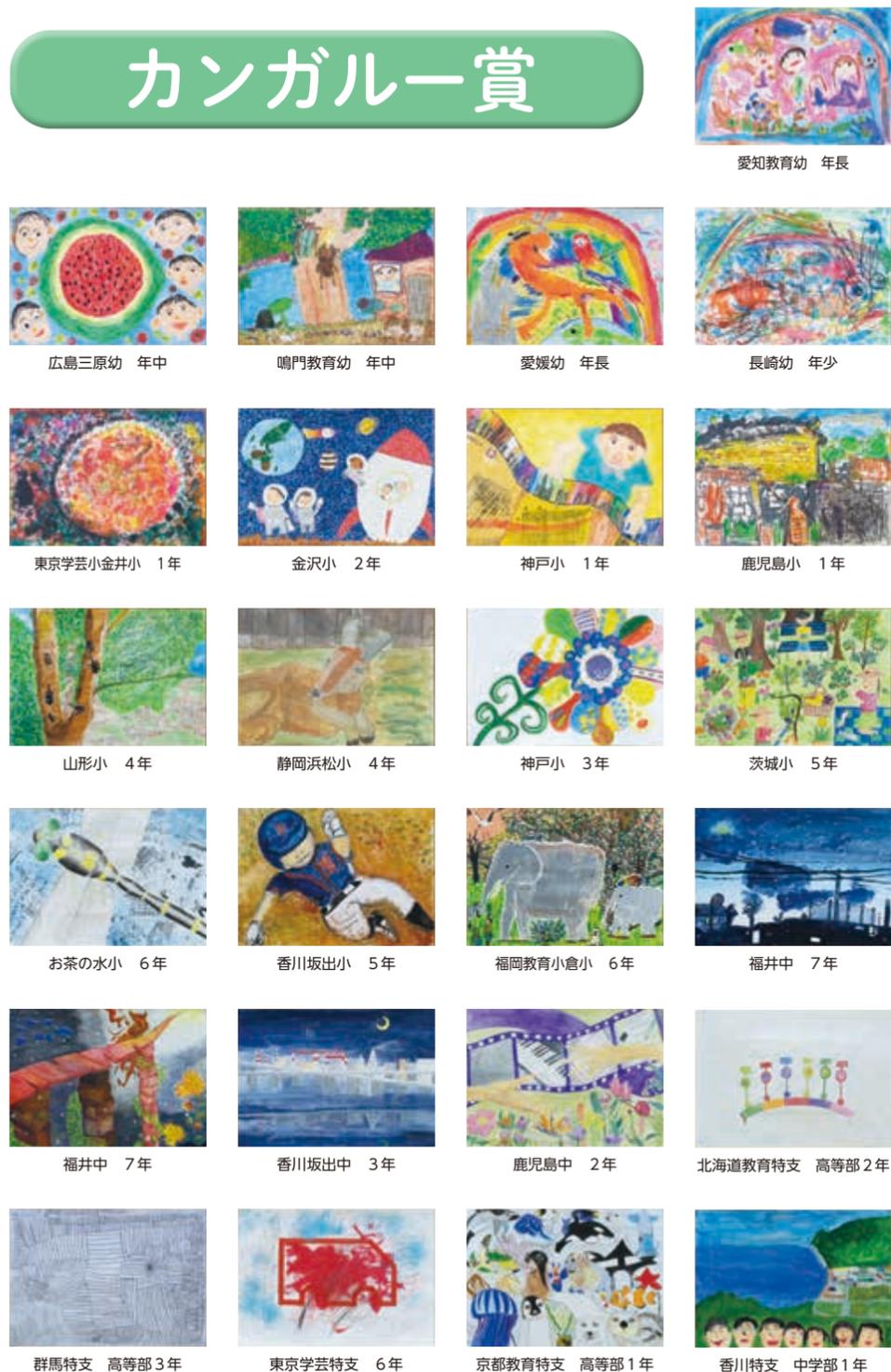
佐久間智之さんは、北海道教育大学附属特別支援学校を平成26年3月に卒業した25歳の社会人です。高等部在籍の時に全附P連主催の「第9回絵画コンクール」で『金森倉庫群と花咲く函館山』が日比野克彦賞を受賞しました。その後「世界自閉症啓発デー in Hakodateアート展」をはじめ多くの展覧会に出品するようになりました。先日、函館市で開催した「ライフ・イズ・アート」展では、の国を旅しよう」展では、地元で活躍する5名のアーティストの一人として多くの作品を展示しました。佐久間さんは、今はもう走っていない

僕にとって絵を描く時間は 大事な時間

古い車も登場する作品の前に「古いものと新しいものが共存している街並みが面白い」と嬉しそうにコメントしてくれました。仕事で忙しい毎日ですが、毎週一日はたっぷり絵を描く時間を楽しんでる佐久間さん。絵画コンクールの受賞をきっかけに、絵を通して人に思いが伝わることの楽しさを知り、今も多くの人と触れ合い充実した毎日を過ごしています。



カンガルー賞



世界の国旗について



埼玉県立大学元教授、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会国際局前アドバイザー 世界の国旗・国歌研共同代表 吹浦 忠正

2021年9月5日、パラリンピックの閉会式をもって、TOKYO2020が終わった。1964年東京オリンピックの以来、札幌、長野の両冬季オリンピック、そして今回を含め、日本で開催されたすべてのオリンピック・パラリンピックに際し、組織委の一員として、国旗を中心とする儀典に関わった。

秋田大学芸学部附属小学校4年生の時、世界地図の周りに各国旗が並んでいるのを見て、担任の先生に訊いた。「北ヨーロッパの国の国旗はどうして、みな同じような十字架なのですか？」

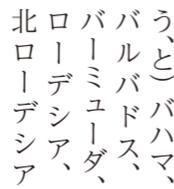
日ごろの成績に問題があったのか、答えは「ま、国旗も大事だが、国語、算数、理科、社会をしっかり勉強しなさい」。

根がまじめなこの少年、素直に4教科を勉強した。すると、国旗がますます興味深くなっていくのだった。同附属中学校に進むと英語が始まった。以後、日本史、世界史、大学では政治学、経済学、比較憲法、宗教学といった文科系の学問にも励んだ。幾何学、色彩学、光学、化学(染料)、動植物学などを知れば知るほど、国旗の奥が見えてきて、傘寿の今日まで、国旗表をカバンに入れたまま、世界中を回っている。その表を眺めていると様々な事象や思いが湧いてきて、容易に飽きることはない。

関係の著作もいくつか50点は超え、いまも同時に6冊を執筆・上梓中だ。前の東京五輪には、NHK大河ドラマ「いだてん」の主演・田畑政治(組織委初代事務総長)からの電話で今の迎賓館にあった事務局に向かった。

「キミは国旗の専門家だそうだが、イギリスの国旗が付いている国旗は他にどんな例があるかな」と上から目線で口頭試問のような問いが来た。生意気盛りの私は、(よし、この人の分からないようなことを言おうと)バハマ、バルバドス、バーミューダ、ロードシア、北ロードシア

1964年の開会式直前



です」と答えたところ、田畑は「？」と眉を寄せたので、「もちろん、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカもそうだが」と付け足した。

今ではわねながら、可愛くないなと反省している。

「キミの仕事は、正しい国旗を正しく掲げることだ。頼んだぞ」ともう一人の試験官?松澤一鶴事務次長が、私の肩を叩いておっしゃってくれ、「ようし、やるぞ」と決心した。さすが前職が東京都教育長、生意気な若者、もといバカ者をすっかりその気にさせてくれた。

このあとの仕事については小学校6年生の道徳科の教科書(日文教)に恥ずかしながら4頁も出ているので、省略するが、いだてんの最後の4回には「吹浦青年」が登場する。

「大河ドラマに存命の人が出るのがあるなだがはじめてだから、最終回まで元気でいてください」というNHKの担当者の言葉に、その年は特段に交通標識や事故に気を付けた(笑)。

今回、TOKYO2020の開会直前に、秋田大学附属中学校の全校生徒、教職員・父兄を前に、ZOOMで「オリンピックと国旗」について話をする機会を与えられ、しよっちゅうTVに出演したり、年中、日本中で講演している自分が、明らかに上がっていた。母校というのはいくらも重たい。襟を正して、「もう一度、機会を」と言いたいのは、リレーのバトンを渡し損ねたオリンピック選手と同じ思いなのだろう。

72年の札幌冬季五輪は東京大会から8年、冬の競技はほとんど先進工業国からの参加のため、カナダの国旗は変わったが、少し助言するくらいで、本番の半年前から国際赤十字の駐在代表として東バキスタンにいた。札幌五輪のさなかに、日本政府は前年末の独立戦争でバングラデシュとなったこの国を承認した。

98年の長野冬季五輪では参加国もぐんと増え、準備も苦労が多かった。思い切って「日の丸」の円を、縦の3分の2にしたことは

忘れられない。冬の競技は背景が雪と雲、5分の3を3分の2にしたほうが、「日の丸」が活き活きすると、勝手なことをしたが、メディアには大好評だった。そして翌年、国旗国歌法の審議にあたっては、参考人として国会に招かれたので、「法制化されない」とこのように国旗のデザインがバラバラになる」と、法で規定すべきだと公述した。オリンピックにずうっと関わってきて、メディアが日本ばかりに重点を置く報道をすることに呆れたが、巨大化と商業化には不愉快さえ覚えた。「オリンピックは終わりの始まり」とまでは言わないが「大変革の始まり」にすべきだと思う。このままではアフリカ諸国での開催はまったく見通しが立たない。5つの輪からなる標章の5番目の輪が完成できない事態だ。そのためには、よりレベルの高い大会があるサッカー、野球、ゴルフ、テニスはオリンピック競技から外すべきだ。例えば、野球という大谷翔平やダルビッシュ有が投げると日本チームと、大リーグで活躍するアメリカやドミニカ共和国などのチームが対戦するならまだ意義がある。他の3競技も同様だ。



TOKYO2020の全国旗を製作したアテナ社で検品する筆者

また、卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボールといった室内競技は原則的に冬のオリンピックに回すのが適当だと思う。今回のTOKYO2020はコロナ禍ということもあり、オリンピック本来の目的である平和と友好への貢献は、残念だが、全く不十分だった。あと少しに迫った北京での冬季五輪、24年のパリ、28年のロス、32年のブリスベンでの大会が、憲章で謳う「オリンピック精神」が十分に発揮される祭典になることを祈る。

私の「国旗人生」はひたすら「国旗に育てられた人生」である。「国旗を知ることとはその国を理解する第一歩で」という「平和運動の1つ」だという気持ちで、これからも国旗の研究と普及に努めてま

いりたい。



2020開会式の日に

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に出場した附属出身者・関係者

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会には国立大学附属学校の卒業生、在校生が多く出場し、メダルを獲得された選手も多数いました。また、選手だけでなく、日本選手団の役員として関与された方がいらっしゃるなど、国立大学附属関係者の活躍を皆様にご紹介させていただくことになりました。今回の全附P連広報委員会独自の調査では限界があり、もし他にもご存じでしたら是非お知らせください。次号第119号において追加でお知らせする予定です。

1. オリンピック

*敬称略

氏名	卒業校/所属校	種目	成績
永瀬 貴規	長崎大学教育学部附属小学校・中学校卒	柔道 男子 81kg級	金メダル
梶原 悠未	筑波大学附属坂戸高等学校卒	自転車競技 女子オムニアム	銀メダル
岡澤 セオン	山形大学附属幼稚園・小学校・中学校卒	ボクシング 男子ウェルター級	2回戦進出
山下 潤	福島大学附属中学校卒	陸上競技 男子 200m	予選出場

2. パラリンピック

氏名	卒業校/所属校	種目	成績
木村 敬一	筑波大学附属視覚特別支援学校 高等部普通科卒	水泳 100m バタフライ	金メダル
		水泳 100m 平泳ぎ	銀メダル
		水泳 200m 個人メドレー	5位
堀越 信司	筑波大学附属視覚特別支援学校 高等部普通科卒	陸上 男子マラソン	銅メダル
米岡 聡	筑波大学附属視覚特別支援学校 高等部普通科卒	トライアスロン	銅メダル
高橋 利恵子	筑波大学附属視覚特別支援学校 高等部普通科卒	ゴールボール	銅メダル

氏名	卒業校/所属校	種目	成績
天摩 由貴	筑波大学附属視覚特別支援学校 高等部普通科卒	ゴールボール	銅メダル
萩原 紀佳	筑波大学附属視覚特別支援学校 小学部卒	ゴールボール	銅メダル
若杉 遥	筑波大学附属視覚特別支援学校 高等部普通科卒	ゴールボール	銅メダル
川嶋 悠太	筑波大学附属視覚特別支援学校 鍼灸手技療法研修科卒	ゴールボール	5位
園部 優月	筑波大学附属視覚特別支援学校 高等部普通科3年生	5人制サッカー	5位
寺西 一	筑波大学附属視覚特別支援学校 高等部普通科卒	5人制サッカー	5位
高田 千明	筑波大学附属視覚特別支援学校 中学部卒	陸上 100m 走	予選 9位
		走り幅跳び	5位
石浦 智美	筑波大学附属視覚特別支援学校 高等部普通科卒	水泳 50m 自由形	7位
		水泳 100m 自由形	8位
		水泳 混合 400m リレー	5位
小野 智華子	筑波大学附属視覚特別支援学校 鍼灸手技療法研修科卒	水泳 50m 自由形	予選 14位
		水泳 100m 自由形	予選 12位
		水泳 100m 背泳ぎ	予選 9位
永井 崇匡	筑波大学附属視覚特別支援学校 高等部普通科卒	柔道 男子 73kg級	7位
平井 孝明	筑波大学附属視覚特別支援学校 鍼灸手技療法研修科卒	柔道 男子 60kg級	7位
木村 由	筑波大学附属視覚特別支援学校 小学部卒	ボート	12位

3. パラリンピック 日本選手団役員

氏名	所属校	役職
塩田 友亮	香川大学教育学部附属特別支援学校 教諭	陸上競技 総務

ファンドレイジングの実践



東京学芸大学附属国際中等教育学校
総務部部长/SAコーディネーター
藤木 正史

東京学芸大学附属国際中等教育学校では2020年、本校へのご支援・ご寄付を推進していくため総務部内に「東京学芸大学附属国際中等教育学校みらい基金」(以下、ISSみらい基金)を設置しました。ISSみらい基金として初めての取り組みは、本校の特徴の一つである生徒のソーシャルアクション推進のためのクラウドファンディングキャンペーン「日本でいちばんソーシャルグッドがうまれる学校」です。82人の支援者から1,124,000円の支援金が集まりました。10名の本校と関わりが深い方からの支援コメントを頂き、また社会貢献について学ぶ6年生(高校3年生)選択授業「国際協力と社会貢献」の受講生によるオンラインイベント、卒業生による応援企画YouTube配信など、本校のつながりを強く感じる取り組みとなりました。支援金は、社会貢献に関わ



クラウドファンディング
トップページ



クラウドファンディングの資金で
購入したSocial Action Book



チャリボンキャンペーンで生徒が作成したパンフレット



クラウドファンディングの資金で招聘した外部講師の授業
国際A「国際協力と社会貢献」



る書籍の購入、社会課題の解決に取り組もうとする生徒の課題研究への助成金、外部講師招聘費などに使われています。NPO団体と協働して国際理解に関するワークショップの開発も行っており、完成後は外部に向けて発信していく予定です。今年度は支援先団体として登録している、書籍寄付「チャリボン」にも力を入れており、町内会や地域の商店街、地元企業にアプローチしてポスター掲示などのご協力をいただいています。PTAの皆様には、集まった書籍の整理や箱詰めなどの作業をお手伝いいただいております。情報発信の拠点である総合メディアセンターの書籍購入や施設充実に活用しており、生徒投票によって決定した雑誌の年間購読資金として活用させていただきます。ファンドレイジングは単なる資金調達ではなく、教職員・生徒・保護者・卒業生が一緒に取り組める活動であり、本校に関わる人々や地域とのつながりを深め、かつ新たな連携が生まれ、本校のファンを増やしていく活動だと考えています。



近隣の幼稚園に
チャリボンキャンペーンの
お願いに



茨城大学教育学部附属小学校
研究主任/副教務
佐々木 康治

地域貢献 ICT教育教員研修の実践



北海道教育大学附属
釧路義務教育学校後期課程
副校長
小林 一博

9月からのオンライン授業を実施するにあたり、大学での実践を参考にしました。大学では、Microsoft Teamsを利用して、学生に対して黒板の前で授業を配信するだけでなく、ホワイトボード機能やブレイクアウトルームなど、Teamsの様々な機能を活用して授業を工夫していました。そうした実践を参考に、小学生の子どもたちに分かりやすく、どのように伝えるかを本校の教職員が工夫し授業を行いました。オンラインはオンラインの良さがあり、それを生かしながら実践をしていくことが大切だと感じました。例えば、国語の書き順、音楽の鍵盤の動き、絵の具の準備の仕方など、子どもたちが画面をみているので、視点を限定して見せることができるのがオンライン授業の良さであり、体育、図工、音楽、家庭科の技能教科に加え、外国語(ALTも参加)、生活科、総合的な学習の時間、道徳、学活など、全教科でオンライン



オンライン授業への取り組みを地域の学校園へ伝える

今回のオンライン授業では、Teamsとともにロイノート・スクール(本校で普段から活用している学習支援アプリ)が大いに役立ちました。Teamsで授業を行いながら、「ワークシートを配るよ」とロイノート・スクールで子どもたちにワークシートを配ったり、「書き終わったら提出箱へ」と、ワークシートを回収したりしました。Teamsとロイノート・スクールの2つのアプリを同時に使うことで、オンラインでの双方向的な授業がより実施しやすくなりました。本校のオンライン授業の取り組みは、周辺の学校にも周知され、参考とされています。これからどのようなことが起こるか予想ができませんが、子どもたちの学びが保障されるように、引き続き通常授業とともにオンライン授業の研究も続けていきます。



本校は、主要都市にある附属学校と異なり、地域の公立学校との連携や汎用性・実用性のある授業効果の発信など継続した結びつきが欠かれません。4年前より、イベント型の教育研究大会を取りやめ、各教科等が主体的に時期や内容を工夫して開催する授業力向上セミナー方式に移行しました。教育研究会に合わせて毎年発行していた研究紀要の発行も廃止しました。これは、附属教員の負担軽減を図ると同時に、日々の授業改善に力点を置き、ICTの活用を含めた公立学校の授業研修に貢献する教員研修支援センター化に大きく移行した体制づくりを目指したからです。背景には、「附属だからできる」の誤解の払拭と「授業が変われば、生徒も変わる」を授業でお示しし、新たな教員研修のあり方を附属から提供することにあります。これまでも、公立学校の生徒を対象にICT活用授業の出前授業を実施すると共に、時期を問わず要請があれば可能な限り授業公開の受け入れにも応えてきました。昨年からのコロナ禍は、本校の教育活動にも大きな影響を与えましたが、同時に、これまでの授業力向上セミナーやICT活用授業実践を飛躍的に広めることとなりました。現在、地域の公立学校と教員が求めているのは、

「子どものいる教員研修支援センター」としての挑戦



各教育委員会からの要請に応じたICT教員研修支援事業(興部町教育委員会)



各公立学校からの要請により行う本校教員による出前授業(羅臼町立知床未来中学校)

授業改善に向けた個別的で実践的な研修の場です。そのため、対面型やオンライン型を問わず、「少人数から」、「いつでも」実施できる機動性と柔軟性を生かした授業公開や出前授業、教員向けの出前研究会等のニーズが高まっています。最近、公立教員が事前にメール等で本校教員と授業案の事前検討を行った上で、本校生徒を相手に授業を行う出稽古研修が注目されています。1日からの短期間において附属で行う教員研修は、これから求められる教員研修としてさらに発展できるものと確信しています。



公立学校教員が本校生徒を対象に授業をする教員研修(出稽古研修)



香川大学教育学部附属
高松小学校
副校長
大嶋 和彦

教員勤務実態調査によると、看過できない教員の勤務実態が明らかとなり、学校における働き方改革は喫緊の課題となっています。そこで今年度、GIGAスクール構想の円滑な実施や校務のデジタル化に向けて、デジタル推進局という部署を新たに設置しました。

まず取り組んだのは、保護者宛の手紙や行事等の案内、各種お知らせ等のデジタル化です。ホームページ内に保護者専用サイトを作成し、そこに掲載するようにしています。学校側は、印刷時間及び印刷用紙、配布の時間等の削減ができ、保護者側は、紛失等の心配がなく、携帯等からでも手軽に確認できることが利点として挙げられます。

次に取り組んだのが、欠席・遅刻連絡のフォーム入力化です。フォームでの対応により、保護者は、朝の忙しい時間帯以外でも連絡が可能となります。その結果、電話連絡はほとんどなくなり、日直業務の大幅な軽減につながりました。さらに、入力結果は職員全員で共有できるため、校内の出席状況の把握が容易になりました。また、健康観察カードを電子化し、クラウド上に保存できるようにしました。担任が教師用の一人一台端末からクラウド上にあるシートに直接入力することが可能になり、迅速な集計につながっています。

次に紹介したいのは、個人懇談会の日時調整への活用です。今まで紙ベースで行っていた個人懇談の希望調査をフォーム入力で行うことにしました。入力された情報を担任だけでなく、複数の目で確認することにより、兄弟関係の時間調整等がスムーズになりました。また、調整したデータを各クラスにフィードバックすることにより、学級ごとに日程調整を行う手間が省けました。

日常的な校務では、Microsoft Teamsの活用により、情報の共有化を行っています。Teamsの良さは、複数端末で同時に編集できること、マルチプラットフォーム対応なので、PCだけでなく、スマートフォンやタブレット端末でも使えることが挙げられます。本校では、主に次の三点を中心に活用を行っています。

教職員の働き方改革に向けた校務のデジタル化

まず一つ目は掲示板機能です。今年度より、可能な限り職員間の連絡をメールではなくTeamsに変更しました。SNSアプリの感覚で入力することができるので、生徒指導上の緊急対応も迅速化されました。画像配信により、共通の指導を複数の教室で電子黒板を活用して視覚的に伝えるようになったのは成果だと考えています。二つ目は、職員会議の電子化です。本校では、Teamsのチャネル機能を活用し、情報共有を行っているところに特色があります。いつでも、どこでも資料の確認ができるといったTeams最大の良さがあり、利便性が極めて高いと言えます。三つ目は、危機管理への活用です。プール管理情報や熱中症情報チャンネルを増設し、熱中症警戒アラートも随時確認を行うことができるよう工夫しています。

以上、本校の取り組みの概要について説明しましたが、デジタル化により、校務の効率化を実感できるまでになりました。

これに伴い、保護者側からもデジタル化推進の動きがあり、今年度より、PTAのお知らせ等もデジタル化を実現しています。さらに、PTA役員内部の連絡手段についてもPTA主導でサイボウズを利用したデジタル化を行うなど、学校とPTA双方がデジタル化の良さを実感し、共に推進していくようになってきたことは大きな成果だと考えています。

デジタルのため、カラーで配信できるよさがある。

【本校ホームページから学年便りを見た例】

① QRコード付きの手紙を配信する
② 保護者がフォームに入力する
③ 集計表が表計算ソフトに自動入力される

【フォームによる懇談会日程調整の手順】

保護者が入力すると自動的に表計算シートに入力される。入力された時間も一目で分かる。

【欠席・遅刻連絡フォーム】

【本校独自形式の電子化した健康観察カード】

【本校のTeamsチャンネル】

寄稿



千葉大学教育学部附属
中学校
校長
藤川 大祐
(千葉大学教育学部教授)

長引くコロナ禍の影響で、学校をめぐる状況は大きく変わりました。中でも、GIGAスクール構想によって小中学校等に一人一台情報端末環境が実現したこと、子どもも大人もストレスを抱えやすくなっていることに、注目する必要があります。一見無関係に見えるこの二つのことは大いに関係しており、附属学校においてはこれらに対する有効な対応をモデルとして発信していくことが求められていると考えられます。

一人一台環境においては、教員も児童生徒も早く端末の利用に慣れて有効に活用できるようにすること、そして端末利用上のトラブルを防止していくことが重要です。教員や保護者が厳しくルールを定めて児童生徒に守らせれば、トラブルは防止できるかもしれません。しかし、子どもたちは情報機器が普及している社会で育っているため、本来は自分たちで適切に情報機器を利用できるよう成長していくことが求められます。デジタル社会の一員としてのデジタル・シティズンシップを育むという考え方が必要です。

しかし、大人でもオンラインゲームへの依存やネット上の誹謗中傷が問題になっているくらいです。未熟な子どもたちには何の指導もなく端末を使わせれば、動画やゲームで依存的に遊んでしまったり、チャットやSNSで誰かを傷つけたり誰かから傷つけられたりするものが起こることは当然です。過度な性善説や性悪説に立たずに、子どもたちが適切に端末を利用できる環境を作っていくことが大切です。



コロナ禍となり、若年層の自殺が増えていることや、児童虐待の相談件数が増えていることや、子どもや周囲の大

ICT活用と生徒指導は「車の両輪」

人が高いストレスを抱えている状況が見られ、いじめ認知件数の中でネットいじめの割合が上昇しています。コロナ禍で子どもたちがストレスを抱えているのであれば、ストレスから逃れようとして依存的にネット利用をしてしまったり、ストレスから他者にひどい言葉を浴びせてしまったりする危険性が高くなっているものと考えられます。

こうした状況で、今、学校に求められるのは、いじめ防止対策や教育相談体制等を含めた生徒指導に関わる体制の確認です。ICT活用のように児童生徒の自主性を尊重する教育活動をする上では、問題を抱えている児童生徒に寄り添い支援できる体制が不可欠です。ICT活用と生徒指導とを、「車の両輪」としてバランスよく進めることが求められます。

いじめ防止対策推進法が施行されてから8年が経過しますが、最近でも教育委員会や学校が法に反した対応をとって問題となる事例が続いています。今年10月、私はNPO関係者、弁護士、大学教員らとともに、教育委員会や学校が法に従わない現状をふまえたいじめ防止対策推進法改正のための政策提言をまとめ、文部科学省での記者会見で発表しました。この提言の中では、児童生徒が苦痛を覚えていると考えられる場合にはすぐにいじめの有無を確認し、いじめがないことが確認できた場合を除いて24時間以内に学校は設置者に報告すべきことを含めています。学校は、それくらいのスピード感で、児童生徒の苦痛に敏感に対応できなければなりません。

児童生徒の自主性を尊重したICT活用のためには、問題が起きてその問題を深刻化させないことが前提となります。附属学校が率先してこうした取り組みを進められるよう、教職員と保護者が協力していきましょう。



第2回 全附P連 みんながつながるオンライン文化祭

8月初旬から「第2回全附P連みんながつながるオンライン文化祭2021」を今年度も開催しております。昨年度から始まったオンライン文化祭。今年も続々と動画作品が集まってきました。

この企画は、全附P連のオンライン懇親会の時に「子どもたちの部活の発表や学校内の文化祭や運動会を見ることができないのは残念ですね」という言葉から端を発した企画です。1か月あまりでホームページの立ち上げ、各学校園への周知を開始いたしました。

昨年度は、吹奏楽部や演劇部の発表、特別支援学校の子どもたちの演奏などバラエティーに富んだ内容の動画を投稿いただきました。どの作品も子どもたちのいきいきとした表情に引き込まれるものばかりです。現在もアーカイブとして引き続きご覧いただけます。

2回目になる今年度は、子どもたちのみならず、保護者の同好会活動や先生方の研究などもご紹介いただけるようなカテゴリ構成になっております。「第2回全附P連みんながつながるオンライン文化祭2021」ホームページは、「全附P連」「オンライン文化祭」と検索していただければ見つかります。作品をご覧になるIDとパスワードは、各学校の先生にお問い合わせください。

たくさんのご投稿・ご視聴を心よりお待ちしております。

「第2回全附P連みんながつながるオンライン文化祭2021」

ホームページURL : <https://www.zenfu-bunkasai.org>



(体験) ライフプランシミュレーターを使ってみよう! (4)



- ・年齢ごとの収入・支出の棒グラフ、貯蓄の折れ線グラフが表示されます
- ・60歳になる時にマイナスにならないようにしましょう

この度、「学習指導要領」の改訂により、2022年度から高校の家庭科の授業で「金融教育」の授業が

拡充されます。金融教育とは「お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育」です。そのような背景の下、全附P連では、金融庁様が作成された、小学生から高校生まで年次にあわせた金融経済のための教材とそれを活用した出張授業のサービスと、附属学園の皆さまに積極的にご紹介させていただいているところです。



お金の流れに関する知識や判断力すなわち金融リテラシーを、身につけられるよう、金融庁職員の方から子どもにわかりやすく講義していただくものであります。具体的な教材では、「資産形成」「借金」「家計管理」「ライフプラン」という4つのシミュレーションが可能になっています。

特別支援保護者交流会の紹介

「特別支援保護者交流会」は全国の国立大学附属特別支援学校・学級保護者どうしの交流促進と児童生徒のよりよい暮らしを考える事業です。

昨年度は保護者の多くが直面する課題として普段はなかなか語りにくいテーマである「性」についての意見・体験談が交わされ実りある時間を共有することができました。今年度は東日本大震災の発生から10年を迎えたことを踏まえ家庭や学校において必要な災害準備を考える機会とできるよう「みんなで考えよう!ばくたち・わたしたち

のできる「防災!」をテーマに企画しております。(令和3年12月11日に開催)

地域による事情やお子さまの障がい種別などにより抱えるお悩みはひとつとして同じではありませんが特別支援ならではのテーマで新たな気づきやつながりが生まれることを願い継続して開催していく予定です。

特別支援に関わる保護者のみなさまとともにより良い事業としてまいりますので引き続きご関心をお寄せいただけますようお願い申し上げます。



オンラインあいサポーター研修の紹介

全附P連は障がいへの理解・啓発を目的に「あいサポート運動」に取り組んでいます。

お申し込みのあった学校園や団体を訪問しての「あいサポーター研修」(障がいを知るための研修)をメインとして行っていますがコロナ禍により研修実施の機会が失われ本運動は停滞してしまっていました。

事態を打開するため対面研修で心配される感染拡大リスクを避けたオンライン形式での研修を構築し、本格的実施に先立って本会の理事・評議員に向けた研修を昨年11月に実施しました。

初の試みであったため不安も伴いましたが、参加した方からは概ね肯定的な意見が聞かれ、どのような状況でも可能性を探りながら本運動を推進していくことへの後押しを受けることとなりました。

運動の推進役となるために理事・評議員が受講した今回の研修でしたが、事業の目的は全国の国立大学附属学校から各地域に障がいへの理解を広め、やさしい社会づくりに貢献していくことです。

引き続き本事業に関心をお寄せいただけますようよろしくお願い申し上げます。



『ほっとひといき』PTA活動紹介

子どもたちに夏の思い出を! -ビッグアートをつくらう-



福島大学附属特別支援学校 父母と教師の会 父親部長 鈴木 裕治



完成した作品をかこんで

福島大学附属特別支援学校のPTAには「父親部」という父親全員が所属する部があり、在校生・卒業生ともに楽しめる行事として夏休みのはじめに「サマーフェスティバル」を開催しています。先生方と協力しながら多くの模擬店やヒーロー(?)ショーに全力で取り組んでいます。今年はコロナ禍の影響により中止となってしまいました。



僕(わたし)が塗ったのはどこかな?

今年は感染防止対策を徹底したうえで開催しましたが、様々な制限の下でも「記憶に残るものを」という想いから福島大学出身のアーティストであるサガキケイタ氏から提供していただいた作品をベースにした「ビッグアート」の制作を企画しました。それぞれの子どもたちが一生懸命に塗ったピースをお父さんたちがつなぎ合わせてサマーフェスティバル当日にお披露目しました。

福島ゆかりのフラガールや赤べこ、こけしなどたくさんやさしい顔が微笑む絵はいまも体育館に掲示されており、児童生徒みんもの成長を見守りつづけています。

全附P連PTA研修会 第12回全国大会 オンライン講演会

12月26日(日)～1月31日(月) YouTube オンデマンド配信

※本研修会は附属学校関係者のみの限定配信です。

会員の方はどなたでも無料でご視聴いただけます。

閲覧方法は、各学校から配布されましたご案内や、附属だより118号本紙をご覧ください。

講演①

「好きな自分、嫌いな自分」

教育系YouTuber
葉一さん



講演②

生きるって、なに？

自分らしく生きて、
自分を好きになろう！
“地球人”として生きる秘訣♪

地球の広報・旅人・エッセイスト
たかの てるこさん



第13回全国大会は、従来の集合型の大会とオンライン配信を融合したハイブリッド大会を企画！多くの皆様のご参加をお待ちしております！

日程 2022年
9月30日(金)
～10月1日(土)
場所 ハイアット
リージェンシー東京

全附P連 PTA研修会 第13回全国大会

全附P連、SNS始めました。



Facebook



Instagram



Twitter

全附P連がFacebook、Twitter、Instagramの3つのSNSアカウントを開設しました。会員の方々のフォローと「いいね」を楽しみにしています。全国大会や絵画コンクールなどの全附P連の独自事業、理事会、各委員会の報告などの情報発信が基本となりますが、全附P連SNSからの主なフォロー先である加盟校と文部科学省などの教育関係機関からの情報発信をリツイートすることで会員の皆様と情報を共有することも重要な業務と位置付けています。

Facebookは数年前から運用していた「全附連 広報」という個人用アカウントと、「全国国立大学附属学校PTA連合会」というページを開設しています。Twitterは「全国国立大学附属学校PTA連合会」というアカウント名で開設しています。拡散性が高い特性を活かし、非フォロー

「全附P連作文・絵作文コンクール2021」を開催します。全附P連の開催する作文・絵作文コンクールでは、日々の学校生活の中で得た体験や感動を作文・絵作文に書くことで文章表現によるコミュニケーションの魅力を子どもたちにも伝えてもらい、心豊かな生活を身に付けてもらうことを目指しています。子どもたちが幅広い視野から自分の気持ちを伝える取り組みが進められることを期待しています。本年度も、「先生へのメッセージ」や「先生との思い出」をテーマとして設け、開催します。子どもたちが先生への感謝を思うとともに、この作文・絵作文を読んだ先生方に教師を続けていくことへのやりがいや動機付けを増進してもらうことも目的としています。

《全附P連作文・絵作文コンクール2021》開催のお知らせ

発行所
全国国立大学附属学校連盟
(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門
1-2-29 虎ノ門産業ビル8F
全附連事務局
TEL:03-3591-2091
FAX:03-3591-2092
E-mail:jimukyoku@zenfuren.org
印刷:株式会社インテックス

編集委員
全附連
全附P連
担当副会長 大倉 宏治 (岡山中)
担当副会長 桑名 良尚 (三重中)
広報委員長 西村 寧 (滋賀小)
広報副委員長 阿部 智 (千葉中)
広報委員 仁木 陽介 (福岡小倉中)
編集後記

以前、自身の子どもが附属学校園へ通い始め、附属学校園の教育活動に接したときの興奮めいた感動を思い起こしながら、附属学校園の魅力ある教育活動を探してきました。

附属だよりや全附P連SNSで紹介させていただこうと考え、今回の附属だよりでは全国の附属学校園に掲載記事の募集をいたしました。コロナ禍においても先導的な役割を果たし続ける多くの皆様のご協力のもと、魅力的な紙面の作成することが叶いました。

ご協力いただきました皆様に感謝いたします。
(西村 寧)

国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

この保険は(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

2021年度 中途加入受付中 カンガルー保険のご案内

ただ今募集中!

詳細につきましては、パンフレットをご覧ください。

<p>団体総合生活保険</p> <p>任意加入制度</p> <p>24時間補償</p> <p>保険期間 2021年4月1日午後4時から2022年4月1日午後4時まで1年間 ※補時ご加入いただけます。(お申込日にかかわらず、補償は2022年4月1日午後4時に終了します。)</p> <p>加入対象者 ①国立大学附属学校園に在籍の幼児・児童・生徒 ②本制度にご加入いただいた上記①の兄弟で、公・私立の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に通われている幼児・児童・生徒(ご加入時に満3歳以上から満18歳以下の方に限ります。)</p> <p>加入手続き パンフレット差込の加入依頼書にご記入・捺印(銀行届出印)のうえ、返信用封筒にてご返送ください。</p> <p>申込締切日 随時ご加入いただけます。(お手続きの翌月1日(午後4時)からの補償開始となります。)</p> <p>※パンフレットのご請求、保険料につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。</p> <p>〔引受保険会社〕 東京海上日動火災保険株式会社 (担当課)公務第二部文教公教室 〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL:03-3515-4133 FAX:03-3515-4132 2021年4月作成 21-TC00278</p>	<p>全員加入制度 ※個人での加入はできません。</p> <p>1 園児・児童・生徒、教職員の皆様のケガなどを補償する 園児・児童・生徒・教職員 総合補償制度 (学校契約団体傷害保険、賠償責任保険PTA特約)</p> <p>2 園児・児童・生徒、教職員の皆様が犯罪事故からお守りする 犯罪被害事故 見舞補償制度 (傷害総合保険)</p> <p>3 PTA活動に参加中の両親・教職員の皆様のケガや賠償事故を補償する PTA活動総合補償制度 (普通傷害保険PTA団体傷害特約、賠償責任保険PTA管理者特約、生産物特約)</p> <p>保険期間 2021年6月1日午後4時から2022年6月1日午後4時まで ※「カンガルー保険(全員加入制度)」は(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会を引受保険会社として、学校契約団体傷害保険、損害保険ジャパン株式会社を引受保険会社として、学校契約団体傷害保険、損害総合補償、PTA団体傷害保険、賠償責任保険(PTA特約、PTA管理者特約、生産物特約)をそれぞれ組み合わせることで加入する補償制度のペイネームです。※この広告は概要を説明したものであります。詳細はパンフレットをご覧ください。</p> <p>〔引受保険会社〕 損害保険ジャパン株式会社 団体・公務開発部 第三課 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:03-3349-5408 FAX:03-6388-0162 SJ21-00474 2021年4月14日</p>
---	--

〈北海道・東北・関東・北信越・四国地区〉
株式会社 第一成和事務所
東京都中央区日本橋久松町11-6 ☎ 0120-100-492
日本橋TSビル 8F

〈東海・近畿・中国・九州地区〉
海上商事 株式会社
東京都渋谷区代々木2-11-15 ☎ 0120-745-748
新宿東京海上日動ビルディング